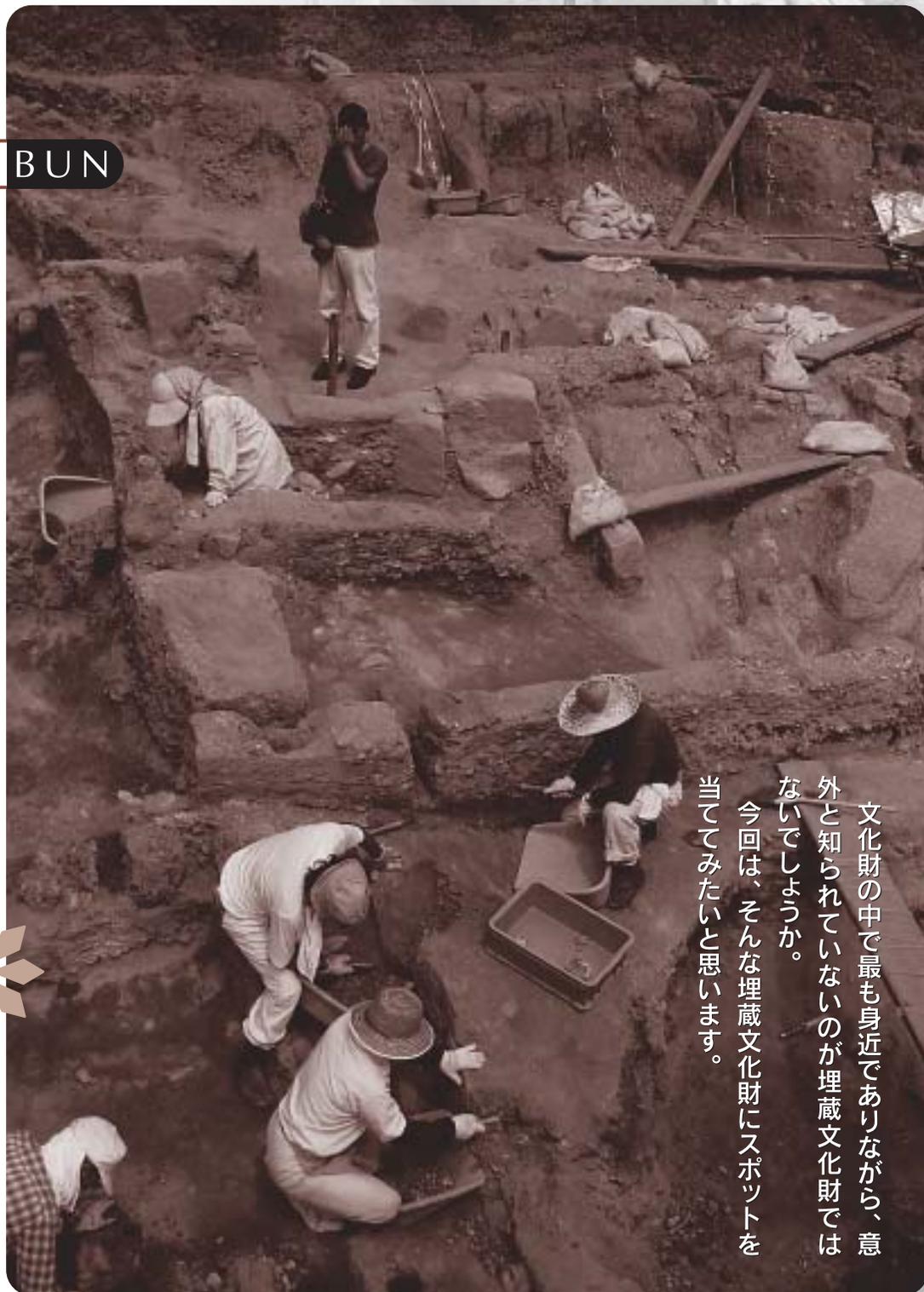




まい ぶん 埋文って何



MAIBUN



文化財の中で最も身近でありながら、意外と知られていないのが埋蔵文化財ではないでしょうか。
今回は、そんな埋蔵文化財にスポットを当ててみたいと思います。



“まいぶん”ってどんなもの？

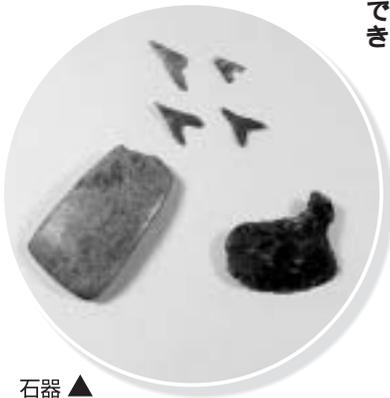


『まいぶん（埋文）』とは、埋蔵文化財のことで、文字が示しているように土地に埋まっている文化財という意味です。

文化財と言えば、建造物、美術品、史跡など種類はたくさんありますが、『まいぶん』もそんな文化財の仲間の一つです。

“まいぶん”は大きく2つに分けることができます。

もう一つは、遺物いぶつです。昔の人が使っていたもの（石器、土器、木製品など）で動かすことができるものです。
土岐市では、窯跡からたくさんの陶器が出土しています。これらの遺物は、美濃陶磁歴史館で見ることができます。



石器 ▲



▼ 元屋敷窯出土遺物

▲ 古墳出土遺物



発掘調査によって発見される遺構や遺物から読み取ることができるさまざまな情報が、当時の人々の生活の様子や文化などを伝えてくれます。

一つは、遺構いこうです。住居跡（竪穴式住居など）お墓（古墳など）そして、土岐市に多く残っている窯跡などの動かすことが困難なものです。
国の史跡に指定されている元屋敷陶器窯跡や乙塚古墳、段尻巻古墳も実は『まいぶん』なのです。



▲ 乙塚古墳



▲ 発掘の様子



◀ 元屋敷窯

“まいぶん”で何が分かるの？

それでは、『まいぶん』によって何が分かるのでしょうか。

やきもののみち土岐市には、たくさんの窯跡があり、それらを調査することで窯業の歴史が解き明かされてきました。

今回は、平成16年度に行われた村跡（肥田浅野元町）の発掘調査から分かったことを紹介します。

村跡と書きましたが、もちろん調査前は水田が広がっており、何が埋まっているかは分かりませんでした。

発掘してみると、縄文時代から明治時代までの幅広い時代の遺構・遺物が確認されました。

分かったこと

現在は、田んぼとして利用されていますが、災害に遭いにくい地形で昔の人にとっては住みやすい環境だったようです。

地元で作られた陶器のほかに常滑市などの製品、さらには遠く佐賀県の伊万里焼まで出土しました。

分かったこと

各地の窯跡から出土した製品と比べることで産地が分かります。全国規模の流通網が発達していたことが分かります。

高台の部分がスベスベしている抹茶茶わんが出土しました。

分かったこと

長年使われているうちにザラザラだった表面がスベスベになったのではないのでしょうか。窯跡から出土した（使用されていない）茶わんと比べることで推測できます。

当時は、高級品だった茶道具が、京都や大阪などの都市だけではなく、地元にも流通していたことが分かります。



陶器以外では、植物や昆虫が出土しました。

植物が枯れてしまっても、残る花粉やプラントオパールと呼ばれる物質を分析しました。

ススキを抜こうとして手を切ってしまった経験のある方がみえるかもしれません。これは、葉にたまったガラス質の成分（「プラントオパール」）がノコギリの刃のようになっていたためです。

分かったこと

イネの花粉やプラントオパールが大量に検出されたことから、周辺に水田があったことが分かります。

焦げた米やオオムギが検出されたことからそれらを調理したことが分かります。

分かったこと

樹木類では、コナラ、マツ、クリなどの花粉が検出されました。

周辺には、落葉広葉樹林や松林があり、長い年月をかけて緩やかに人の手が入られたことが分かります。

分かったこと

昆虫では、コガネムシ、ゾウムシ、ゴミムシ、アリなどが検出されました。

水生昆虫は検出されず、草原や森林にすむ昆虫が生息していたことが分かります。



このように、調査によって分かることがたくさんあります。しかし、今回紹介したような普通の人々の暮らしに関する『まいぶん』の調査は、まだ十分に行われていません。さらに調査・研究を進めていけば、いつの日か全容が明らかになる日が来ることでしょう。

水田が広がる農村地帯の中に広葉樹林や松林があり、懐かしい里山の風景が広がっていたことでしょう。
そこに生け垣で囲まれた屋敷が建っています。
この屋敷には、農村でありながら私たちが考えている以上に、裕福で教養のある人物が住んでいて、お客さんをもてなすために各地から取り寄せた茶道具を使ってお茶をたてていたのかもしれませんが。

遺構・遺物や絵図などから、たくさんの方が分かかってきました。それでは、当時の様子を再現してみましよう。

左の図は、江戸時代の浅野村の絵図です。調査地の辺りには、生け垣で囲まれた屋敷が描かれています。

古い絵図や文献から、近くに街道があり宿場町として栄えていたことが分かります。

“まいぶん”って大事ななの？



ここまで紹介してきた『まいぶん』ですが、土の中に埋まっているので普段は、人の目に触れることはありません。そのため、工事などによって知らないうちに破壊されてしまう恐れがあります。

教育委員会では、市内をくまなく歩いて遺物が落ちているか確認したり、地元の方に話を伺ったり、文献を調べたりして得た情報をもとに、『まいぶん』が埋まっている可能性がある地域を遺跡台帳に登録し遺跡地図を作りました。

『まいぶん』は、昔の人の生活の営みや文化を物語る大変貴重な資料です。
この貴重な文化財を守るために工事などの際は、埋蔵文化財の有無を確認してください。

文化財に関するお問い合わせは、文化振興課（内線556）へどうぞ。

